

みちのく会は東日本大震災、福島第一原発事故により北海道へ移り住んだ被災避難者の自助団体です。当会は、2011年4月23日に発足し、会員同士の自助、地域市民とのコミュニティの発生、それぞれが願う自立を目指し、様々な取り組みを行っています。

ホームページ : <http://michinokukai.info/>

ブログ : <http://ameblo.jp/coco-kara-hokkaido/>

メールアドレス : office@michinokukai.info

みちのく会公式キャラクター「ミッチィ」会員投票開始!!

「みちのく会:公式キャラクター大募集!」を企画しました藤本です。北海道での楽しみをみんなで新しくつくろうよ!という想いから数々の会議を経て「ミッチィプロジェクト」が動き出し、約1ヵ月半という応募期間の中、様々な方から作品のご応募頂きまして誠にありがとうございます。お陰様で、応募作品も15作品という結果になりました。以上の作品が出揃いました。そこで、みちのく会員の皆さまに、下記の作品からみちのく会の公式キャラクターにしよう!と思う作品選考に参加して頂きます。

応募作品一覧(全15作品)

作品.1



作品.2



作品.3



作品.4



作品.5



作品.6



作品.7 (変身前)



作品.7 (変身後a)



作品.7 (変身後b)



作品.8



作品.9



作品.10



作品.11



作品.12



作品.13



作品.14



作品.15



投票方法は3つ。「みちのく会宛メール」「月寒事務所宛てハガキ」「月寒事務所宛てFAX」上記の方法を持って、以下の4つを記入頂き、選考投票を受け付けます。

- ①「気に入ったキャラクターの番号」 ②「そのキャラを選んだ理由」 ③「みちのく会所属地区」(札幌本部、〇〇支部、など) ④「お名前」+「年齢」

【注意事項】選考投票は、みちのく会員のみの有効投票となります。会員お一人様1点まで投票可能(複数投票は無効)。投票方法は「メール」「ハガキ」「FAX」によります。今回は所属地区のみちのく会員表記「札幌本部所属、〇〇支部所属」が必須となりますので「メール」「ハガキ」「FAX」に記載漏れないよう宜しくお願い致します。

【受付先】メール:office@michinokukai.info/ハガキ:〒062-0021 北海道札幌市豊平区月寒西1条7丁目1-11/FAX:011-826-4092

投票受付期間は11月9日(必着)までとなります。10日札幌役員会にて投票状況の確認、集計を行ない、投票数の多かった作品が、みちのく会公式キャラクターとして決まります。みちのく会HP等で12日頃発表致します。

有償ボランティアを募集しています

今年度、会の自主事業である缶バッジ製作の受注が増える予定を見込んで、缶バッジ製作や事務仕事など、みちのく会の手伝いをさせていただくスタッフを募集しています。

【時間】平日10時~14時(実働3時間) ※応相談。月に1日でも数日でもOK【期間】平成27年3月末まで(予定)【謝礼】1時間800円【交通費】市内公共交通機関利用料金実費(実働3時間未満の場合はなし)【支払方法】日払または、月末翌月15日払い。【経歴】不問【条件】東日本大震災により北海道へ避難してきた方

希望者多数の場合は、調整させていただきます。社会につながりたい、第1歩を踏みたい方。今月だけならできそう...冬休みならできそう...など単発的に仕事をしたい方。小さなお子さんがいても1か月に数回でも数時間でも一緒にお仕事したい方。託児はありませんが、子どもと一緒に

ならできそう...という方、ご相談ください。いろいろなバリエーションに柔軟に対応ができるようにと考えています。

【注意事項】みちのく会事務局からの連絡は基本的にメールのみになります。欠席、遅刻の際は、電話にて連絡してください。無断欠席・遅刻がある場合、次回から依頼出来なくなります。あらかじめ時間は10時から14時までとなっていますが、事前に連絡いただけた場合のみ9時~12時など変則も受付いたします。遅刻された場合、14時までの作業になり、3時間に満たないので交通費をお支払すること、遅れた場合の延長対応など出来ませんのでご了承ください。ご不明な点は都度聞いていただけたら対応いたします。現在、希望者が多いため1ヶ月に、1人に対して1~2回の稼働になりますが、なるべく多くの会員さんと、シェアしながら続けていければと思います。

【お願い】みちのく会を応援してくださる方からの、無償によるボランティアスタッフも募集しています(会員も可)。この場合、時給ではなく、バッチの出来高によるお支払いとなります。

北海道日本ハムファイターズの稲葉選手に、お礼に伺いました。

過去3シーズンの日本ハムファイターズ戦にて、稲葉選手が観戦シート4席分を毎試合プレゼントしてくださったことに対して10月8日にお礼に伺いました。事前のメーリングで稲葉選手へのメッセージと当日の同行希望者を募ったところ、多くのメッセージをいただき、18名が、当日、みちのく会からの感謝状と花束、そして皆さんからのメッセージを手渡しいたしました。稲葉選手からは「多くの方がご自宅を離れて生活なさっていると聞いています。プロ野球の試合を通じて少しでも楽しいと感じ、北海道を好きになっていただけたらという思いで招待させていただきました」皆さんの思いを背負ってクライマックスシリーズ、日本シリーズと戦っていきます。これからともに頑張っていきたい」という言葉をいただき、参加し



たお子さん、またお母さんたちの笑顔が沢山あふれていました。クライマックスシリーズ前のお忙しい中、このような場を設けていただきました稲葉選手はじめ日本ハムファイターズ球団関係者の方々に感謝いたします。日本ハムファイターズのホームページでも、掲載いただきました



<http://www.fighters.co.jp/news/detail/4896.html>

みちのく会 旭川支部より

こんにちは。JR北海道労組旭川支部様より、以下のご案内をいただいております。参加ご希望の方は、金谷まで(myt.kanaya@gmail.com)へお名前・住所と電話番号を明記のうえ御申込ください。お子さん連れでもそうでなくても、参加できます。

■希望と絆を未来へ、第4回チャリティーもちつき交流会

東日本大震災から3年半が過ぎ、今も多くの方々が家族を残して、放射能への不安を抱えて避難されています。また、福島原発の廃炉作業も難航している状況と聞き及んでいます。私たち大人は、子どもたちの未来に責任を持たなければなりません。その為にも、人に優しいヒューマニズム溢れた社会を創って行かなければなりません。今年で4回目となる「チャリティー餅つき交流会」は、餅つきはもちろんの事、参加された子どもたちと懐かしい遊びを交えて、明るく元気な交流会にしたいと思っておりますので、多くの方々の参加をよろしくお願い致します。(チャリティーもちつき交流会実行委員会 実行委員長 南尚利)

【日時】2014年12月7日(日) 10:00～【開場】9:30(受付開始)【場所】旭川市東地区体育センター【住所】旭川市豊岡2条5丁目【申込締切】2014年11月17日(月)

みちのく会 空知支部より

ダンスチームのお知らせです。今回、厚別桜台桜会会長の穴戸隆子さんと北海道極め組の風間さんのお声掛けと、厚別ひだまりプロジェクトの協力によって、厚別西小学校にて311を忘れないための『観楓 大芋煮会』を開催する運びとなりました。主役の芋煮を食べて頂きながら、お客様に様々なパフォーマンスを楽しんで頂くという一日でしたが、今回は、桜組の小学校低学年チームの「にんじやりばんぱん」と、極め組さん

との共演で「MCハマー」「南中ソーラン祭りバージョン」を演舞させて頂きました。今年の7月に初めて極め組さんと南中ソーランを共演させて頂いた時と比べると、子供達も特にこの一月程で目に見えてレベルが上がってきました。まだまだ極め組さんに引張って頂いている状態ではありますが、常に極め組さんには良い刺激を頂いて、共演出来ることも大きな励みになっています。今回は桜組のみで踊った「MCハマー」も、今回は極め組さんと一緒に踊らせて頂きましたが、大きな動きでこの曲でも良い刺激を頂きました。今回は、今までよりも子供たちの頑張り、成長を確認出来たステージでした。今回は、演舞だけでなく会場の設営や芋煮の調理の方も、子供達みんな手伝いで勉強させて頂くことも出来ました。今回も関係者の方々、保護者の方々にもたくさん協力して頂きました。本当にありがとうございました。



(写真撮影 鈴木貴之)

みちのく会 胆振支部より

みなさん、こんにちは。胆振支部の二瓶です。今回は、昨年洞爺湖町に引越して来た松浦家をご紹介します。インタビュー形式でのご紹介になります。

Q:松浦家はどのような経緯で洞爺湖町に引っ越してきましたか?

A:震災当時、栃木県の最北、那須町に住んでいました。原発事故の直後から家を飛び出し、各地を転々としたあと2011年の8月末に家族で札幌に避難移住。札幌で初めての冬を越えた後、都会を離れ長沼町へ。小さな町での深く温かい人々との関わりで、「避難移住者」という意識から「移住者」になりたいと気持ちが変わっていきました。住民票を移し、子供も初めて保育園に。「定住」に向けて心が動いて行き、長く住める一軒家を探し続けるも、なかなかご縁がなく、町から期限付きで借りていた借家の期限が迫ったのを機に、住処探しの範囲を広げる事に。仕切り直して視野を広げると、どんな可能性だってあるんだということに気づき、以前から気になっていた地域の視察を始めました。その流れで、主人が洞爺湖で仕事を先に見つけて来て、更にその日のうちに住居も紹介された～長沼では時間かけてもなかなか決まっていかなかったことが、洞爺でどんどん決まっていって～洞爺へ移住という流れ、ご縁を感じ、引越を決断しました。

Q:松浦家の家族構成(差し支えなければお名前、年齢も)を教えてください☆

A:進介、聖子、蓮衣(4歳)、美珠(0歳)

Q:下の子は生まれたばかりなんですね!いつ生まれたのですか?

A:今年の7月16日、七色(ナナイロ)の日に生まれました♪

Q:いまの心境を教えてください。

A:第二子はずっと望んでいたのだけど、震災後の落ち着かない生活が続く、赤ちゃんはなかなかやってきてくれませんでした。洞爺に移り住んでから、今まで夢だった事が叶ったり、やってみたかった事ができたり、人とどんどん繋がったり、あきらめかけてきたことがどんどん出来るようになりました。そして洞爺に来て、念願の赤ちゃんを授かりました。色々な事がうまくいき、私たちは、きっといい選択ができて、来るべきところに来て、流れに乗れたんだと思いました。なので望んでいた



自宅出産にもチャレンジしてみることにしました。不安も無かったとは言えなかったけど、洞爺での今の私たちなら絶対うまくいくと信じる事ができました。そしてこの7月に、家族全員で、笑いと感動の涙にまみれた素晴らしい出産を自宅で迎える事ができました。この北海道で生まれた新しい家族の存在は、不安と迷いに翻弄されていた私たち家族が、未来に向けて希望いっぱいになっすぐ歩き出した象徴にも思えます。

Q: れいちゃんはお姉ちゃんらしくなったかな?(^^)

A: 産まれる瞬間も全て立ち会ったので、一緒に出産を経験した気分になっているようで、お姉さんを通り越してお母さんのように、甲斐甲斐しく色々面倒をみてくれます。妹が可愛くて可愛くて仕方ないようです。

Q: 旦那さんのお仕事のことをお話ししてください。

A: 今はニセコのヒラフで不動産管理の仕事をしています。

Q: 洞爺湖町の住み心地はどうですか? 気に入っているところを教えてください(いくつかでも構いません)。

A: ◎洞爺湖の自然が美しい。◎移住者が多く人と関わりやすい。親しみやすい。◎環境、食、育児など生活に高い意識の人たちが集まりやすい土地で、そういった人々とどんどん繋がっていきける。またある意味、地域全体でそういうコミュニティーが出来上がっていて、情報も生活も仲間とシェアできる。◎北海道でのシュタイナー教育のメッカ的な地域。

Q: これからのことを語ってください。なんでも結構(仕事のことで家族のことで暮らしたことでも)です。

A: 原発事故後、時間はかかったけど、私たち家族はやっと本来の自分たちらしい生活に戻り始めているような気がします。

～楽しんで、夢を持って自分たちらしく生きる～ 大きな悲しみも喪失感も、それを乗り越える過程と今を思うと、原発事故あるなしに関わらず私たち家族に必要な課題だった気がします。那須の地で暮らしていたように、できるならばこの洞爺で家を構え、畑や田んぼ食べ物を作り、生活に関わるあらゆる物を自分たちの手で作り、自然と関わりながら、子供達と、生きる力と楽しむ心を養って、力強く豊かに生きていきたいです。

松浦さん、素敵なお話をありがとうございました。北海道へ移住するきっかけは本当に大変なものであったにも関わらず、いまは、子どもたちも含めて遅く、そして伸び伸びと暮らす姿に勇氣と元気をもらっています。そして、洞爺湖町は本当に素敵な魅力的なところです。是非、遊びに来て下さいね!

みちのく会会員さん紹介 齋藤 真紀さん

こんにちは。現在札幌市で生活している齋藤です。震災の起きた年の7月に私と娘2人で福島県福島市より自主避難してきました。主人は会社を営んでいるため一緒に来ることができず、今も福島市で単身生活をしています。震災当時は長女が小学校6年生、次女は幼稚園年長だったのが、今では高校一年生と小学校四年生になりました。当初は夏休みを絡めて三ヶ月だけの避難のつもりで厚別に来ましたが、震災後に長女が進学した地元の中学校を退学(小学校は休学中)して、札幌で進学しました。厚別から二度引越しをしましたし、仮住まいと思って住んでいますので、最小限の荷物、手抜きのご飯、我慢と落ち着かない生活環境の中で育っていく子供達には、本当に申し訳なく思います。福島に住んでいた時は、手作りの雑貨や輸入インテリア雑貨などを販売するお店を開いていました。札幌に来た当初は、同じように避難をして来た方々と、手作り品を作ってみんなで協力しながら販売をすれば、小さなお子さんがいらしてもできる仕事だと思い立ち、材料も沢山用意して声を掛けたりしました。ですが、皆様やはり色々忙しく、連絡があつという間に途絶えてし



まいりました。今は、雑貨の販売も地味にしていますが、白い食器に転写紙(シールのようなもの)を貼って窯で焼き上げる「ポーセラーツ」と「石鹸デコパージュ」の講習会を行っています。興味のある方は、ぜひお声を掛けて下さい。私はこれから先のことが全く決められず、今でも悩んでいるのが正直なところです。移住を決めた方、いつか戻ろうと思っている方、まだ何も決めていない方等、たくさんいらっしやると思いますが、これから来る長い冬の間、一緒に作品を作りながら経験談や将来の話などの話ができれば嬉しいです。

みちのく会札幌本部 今後の予定

■11月1日(土) 18:30~20:30 岩手県出身の交流会 札幌市中心部(要予約) ※10/25から変更になりました ■11月4日(火) 15:00~17:00 わんぱくネチャー 札幌市厚別区(要予約) ■11月6日(木) 10:30~14:00 みちのくカフェ(企画募集中)みちのく会月寒事務所 ■11月11日(火) free 賛同される方によるゴミひろい各自みちのく会事務所では13時より開始 ■11月13日(木) 10:30~14:00 みちのくカフェ(浜通り出身者のお茶会)みちのく会月寒事務所(要予約) ■11月20日(木) 10:30~14:00 みちのくカフェ(企画募集中)みちのく会月寒事務所 ■11月21日(金) 18:00~21:00 アンパンナイト(交流会・道民の参加あり)みちのく会月寒事務所(要予約) ■11月22日(土) 18:30~20:30 宮城県出身の交流会 札幌市中心部(要予約) ■11月27日(木) 10:30~14:00 みちのくカフェ(出張お茶会)札幌市東区(要予約) ■11月28日(金) 18:00~21:00 アンパンナイト(交流会・道民の参加あり)みちのく会月寒事務所(要予約) ■12月2日(火) 15:00~17:00 わんぱくネチャー 札幌市厚別区(要予約)

※今後の予定は変更がある場合がありますので、必ず事前にみちのく会月寒事務所まで、お問合せ、ご確認ください。電話:011-826-4092

みちのく会のお問い合わせ先はこちら

■みちのく会 札幌本部 会長 本間 紀伊子(ほんまきいこ)
札幌月寒(つきさむ)事務所
住所: 〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条7丁目1-11
Tel・Fax:011-826-4092 HP:<http://michinokukai.info/>
E-mail: office@michinokukai.info
【札幌本部の会員数:1,450人】大人:763人/高校生:15人/中学生:50人/小学生:238人/乳幼児:384人

■みちのく会 旭川支部 支部長 金谷 光英
住所: 〒070-0032 旭川市2条通7丁目227番地-1 マルカツ3F
Tel:090-2737-3451 E-mail: asahikawa@michinokukai.info
【旭川支部の会員数:144人】

■みちのく会 空知支部 支部長 渡辺 歩
〒069-0351 岩見沢市北村砂浜4925
Tel:050-5535-5518 E-mail: sorachi@michinokukai.info
【空知支部の会員数:35人】

■みちのく会 函館支部 支部長 鈴木 明広
〒041-0843 函館市花園町33番地8-606
Tel:090-2984-3752 E-mail: hakodate@michinokukai.info
【函館支部の会員数:55人】

■みちのく会 胆振支部 支部長 二瓶 勇樹
〒049-5802 虻田郡洞爺湖町洞爺町167-6
Tel:090-4555-3275 E-mail: iburi@michinokukai.info
【胆振支部の会員数:11人】

■みちのく会 恵庭支部 支部長 小林 靖
〒061-0374 恵庭市恵み野北3-1-1 恵庭RBパーク S-205
Tel:050-3553-8884 E-mail: eniwa@michinokukai.info
【恵庭支部の会員数:10人】